

シグマ研究委員会
63年度第7回運営委員会議事録（案）

日時： 平成元年3月17日（金） 13:30～17:30
場所： 日本原子力研究所 本部 第5会議室
出席者： 鹿園(委員長,原研)、北沢(東工大)、中嶋(法政大)、
村田(NAIG)、若林(動燃)、五十嵐、金子、長谷川、水本(原研)
幹事 : 中川(原研)
オブザーバー： 川合(NAIG)、松延(住友原工)

配布資料

1. 63年度第6回運営委員会議事録（案）と Action list
2. シグマ委員会平成元年度委員名簿
3. P.E. Hodgson 氏から五十嵐氏への手紙
4. A.B. Smith 氏からNEANDCメンバーへの手紙
5. 第31回NEACRP会合報告
6. FP核データサブワーキンググループ会合議事録（案）
7. 重核データSWG63年度活動
8. JENDL-3の公開について
9. 核データ評価国際協力に関する答申（案）
10. CSEWG News letter #75
11. 諮問・調整委員会への諮問事項
12. 第2回核融合炉用核データ専門家会議
13. 63年度会合開催状況
14. 評価活動調査タスク・フォース答申案
15. 核データ専門部会組織

議 事

1. 前回議事録確認

前回の議事録（配布資料1）を確認した。Wilson 氏（LANL）が原研に来る件に関しては、五十嵐氏が問い合わせたが、まだ返事がきていない。

2. 事務局報告

2.1 新年度委員名簿

平成元年度のシグマ委員会名簿（配布資料2）を五十嵐氏が説明した。

2.2 Hodgson 氏の原研来所

配布資料3により Hodgson 氏（オックスフォード大）が9月20日頃原研に来て講演を行う予定であることを五十嵐氏が報告した。

2.3 A.B. Smith 氏からの手紙

1988年には北イリノイにおける全電源の77%が原子力であり、発電コストは石炭、石油をおさえて最も安かったという Smith 氏からの手紙（配布資料4）を五十嵐氏が紹介した。

3. 宿題事項の処理報告

3.1（事務局）1989年核データ研究会プログラム委員会委員長を井頭氏（東工大）に依頼した。

3.2（水本氏）2年報の執筆を吉田氏（NAIG）と柴田氏（原研）に依頼した。

3.3 原子力学会誌の J E N D L - 3 の特集記事執筆担当は次回までに決める。

4. NEACRP 第31回会合報告

昨年10月17日～21日、動燃大洗工学センターで開催された標記会合について、配布資料5を用いて、金子氏が報告した。

5. 専門部会本年度活動と次年度計画（Ⅲ）

5.1 FP核データサブワーキンググループ

川合氏が3月15日のFP核データSWG会合議事録（配布資料6）により、評価作業の進捗状況と来年度の作業予定を説明した。

5.2 重核データサブワーキンググループ

63年度活動について配布資料7を中川氏が説明した。

5.3 核データ専門部会

元年度の核データ専門部会組織（配布資料15）を村田氏が説明した。また、核データ専門部会の評価活動調査タスクフォースの答申（配布資料14）を水本氏が説明した。

タスクフォースでは、今後核データ専門部会で取り組むべき課題を調査し、それを実行するための作業形態をまとめた。それをもとに3月16日にグループリーダー会合を開き、専門部会内の新組織を検

討し、配布資料15の新体制を決めた。

これについて議論し、「新しい作業のためには新しい専門家を入れる必要があるのではないか」、「目標を明確にする必要がある」等の意見が出された。元年度の核データ専門部会長を水本氏とすることが承認された。組織については、もう少し検討し、次回の運営委員会で決定することとした。

5.4 核構造・崩壊データ専門部会

部会長の交替を次回に検討することとした。

6. JENDL-3の公開について

JENDL-3の公開までの手順、JENDL-3の使用手続きについての核データセンター案（配布資料8）を五十嵐氏が説明した。

検討の結果、核データセンター案を承認した。

7. 核データ評価の国際協力について

核データ評価国際協力に関する答申（案）を水本氏が説明した。FENDL、世界統一ファイル、コードの相互比較、モデルパラメータの整備、加速器遮蔽用核データ、高エネルギーデータ等について議論した。

答申は次回までに各自検討し、意見を水本氏に伝えることとした。

CSEWG Newsletter #75 を五十嵐氏が説明した。4月3～6日のCSEWG会合に深堀氏が出席する予定である。

8. 諮問・調整委員会への諮問事項

諮問事項案（配布資料11）を五十嵐氏が説明し、検討の結果、承認した。諮問・調整委員会は3月27日に開く予定である。

9. 新年度の会合予定

配布資料13（63年度会合回数実績）、配布資料12（核融合炉用核データ専門家会合案）を五十嵐氏が説明した。

新年度の会合予定については、専門部会長と事務局で案を作成し、次回か次々回の運営委員会で検討することとした。

10. その他

次回は4月28日（金）とし、次の方々をオブザーバーとする。

飯島氏（NAIG）、吉田氏（NAIG）、松延氏（住友原工）、井頭氏（東工大）

Action List

No.	担当者	内 容	期 限
1	菊 池	原子力学会誌 J E N D L - 3 特集記事の執筆 者を決める。	次 回
2	核データ 専門部 会	専門部会内の組織についてさらに検討する。	次 回
3	中 嶋	核構造・崩壊データ専門部会長交替の案を検 討する。	次 回
4	菊 池	J E N D L - 3 について、ソフトウェア登録を するとどういふメリットがあるかを調査 する。	次 回
5	各委員	核データ評価国際協力に関する答申案を検 討し、意見を水本氏に伝える。	次 回
6	事務局 専門部 会長	元年度会合開催予定の案を作成する。	次 回 または 次々回